**平成新山ネイチャーセンター**

平成新山ネイチャーセンターは1990 年から1995 年の普賢岳(1,359メートル)の噴火により垂木台地を荒廃させた巨大な溶岩石、岩、灰の上に 2003 年に建てられた。科学的な研究および教育センターであるこの施設で、訪問者たちはこの地域を形作った強力な火山の力について、また、自然と人々が災害からいかに早く立ち直ったかについて学ぶことができる。火山の噴火後、動植物が回復するまでには通常数十年しかかからないが、その後何世紀にもわたって、噴火による荒廃の痕跡が土壌に見られる。近くの眉山(819メートル)と垂木台地を比較した展示は、過去の噴火の兆候がまだ森の岩と土に見られることを示している。

また、平成新山自然センターでは、さまざまな火山状況がさまざまな種類の岩をどのように作り出しているかを説明する一連の展示を行っている。科学者たちは噴火の全期間を通して普賢岳を観察し、これらの岩石がいつ、どのようにして形成されたかについての重要な情報を提供した。これらの体験型展示は、噴火の前後のピークを示すビデオで補完されている。

展示を見た後、自然センターの周りの森の中を曲がりくねった遊歩道や小道から回復しつつある生態系を見ることができる。平成新山(1,486メートル)はまだ活火山であるため、噴火の際には道沿いに柵が設置されている。これらの柵の一つの頂上にある小さな展望台からは、山の頂上の壮観な眺めを楽しむことができる。